

ジオパークを活用した地域づくりの実例（北海道 洞爺湖町）

洞爺湖町役場経済部参与 武川正人 ジオパーク推進課 中谷麻美

はじめに | 洞爺湖町でのジオパーク活動

洞爺湖町は洞爺湖有珠山ジオパークを構成する町の一つで、噴火湾（内浦湾）と洞爺湖、有珠山の一部を含む。町の北西部は約11万年前の巨大噴火の際に形成された火砕流台地が広がり、道内有数の畑作地帯になっている。

2000年の有珠山噴火では、山麓である洞爺湖温泉付近で新しい火口が開き、**噴石・泥流の被害**を受けた。事前避難により人的被害はなかったものの、隆起・陥没などの被害が顕著だった地域は「**金比羅火口災害遺構散策路**」や「**西山山麓火口散策路**」として保存・公開している。

しかし、大地の変動が感じられる火山や温泉は**湖の南岸に集中**しており、ジオパークへの取組みも、町内で温度差があった。

そのため2012年に新設されたジオパーク推進課では、課題を**①取組みエリアを全町に広げる ②町民にメリットのある活動**に設定し、事業を展開してきた。

2014年から現時点まで、洞爺湖町でのジオパークを活用した地域づくりがどのように進んだかをまとめ、新たな活動への足掛かりとしたい。

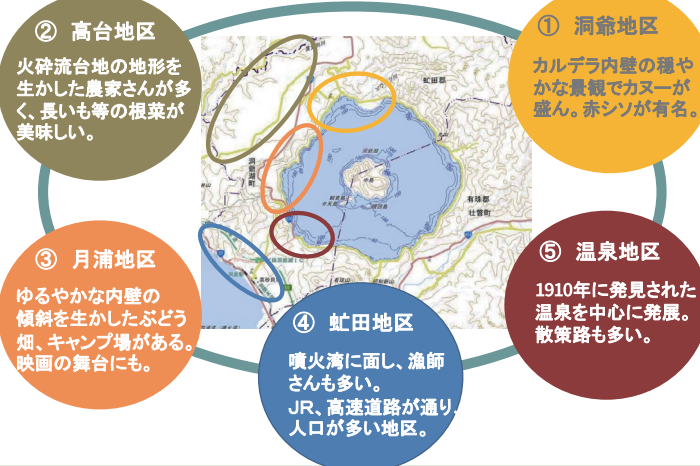
1 | 洞爺湖町のデータ



○人口 **8,753名**
(2018.3.31)

○面積 180.81km²

○各地区の特徴（多様な主体）



2 | 洞爺湖町のジオパーク事業

年度	町の課題	事業方針	事業 / 成果品
2014 (H26)	▼ 「ふるさと感」の薄れ ▼ もてなす人がいない ▼ ジオパークネットワークを活用したい ▼ 良い産物を作っても埋もれてしまう 【充当予算】過疎地域等自立活性化推進事業	★ ふるさととの成立ちを見える化 ★ 案内役の養成 ★ 産物+「物語&デザイン」	・洞爺湖着せ替えマップ ・ふるさと冊子「おたから」「じかんりょう」 ・ストーリーカード6種 （じゃがいも、タコ、ホタテ、豆、財田米） ・オリジナルエコバック ・岩石かるた ・コンシェルジュ養成講座
2015 (H27)	▼ 観光客のルートが温泉に集中 ▼ 冬季のアクセスの悪さ ▼ ジオパークの認知度が低い ▼ 地元産品の自己評価が低い（当たり前化） ▼ にぎわいの場がない 【充当予算】地方創生先行型（タイプⅠ） 洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用したDMO観光地域づくり連携事業	★ 温泉地区に集中しがちな来訪者を町全体に回遊 ★ ジオパークの魅力を見える化（JGNIについて展示） ★ 地産食材の優位性を自覚	・ガイドステーション製作（17台） ・ジオパーク展会場リニューアル（38地域の産品と大地のつながり） ・駅施設への俯瞰図設置 ・洞爺カルデラカフェ ・洞爺カルデラレストラン （冬季休眠施設の活用）
2016 (H28)	▼ 地域産業の停滞 ▼ 1市3町の連携したPR ▼ 産品のブランディング ▼ 送料の高さが流通を阻害 【充当予算】地方創生加速化交付金事業 （洞爺湖町・伊達市・豊浦町・壮瞥町）	★ 食材活用マネジメント ★ 送料補助でジオの恵みを全国に流通 ★ 梱包資材でもPR	・「洞爺の水」のペットボトル化 ・ジオパーク展会場リニューアル（日本・世界地図、サイネージ導入） ・ふるさとPR梱包材製作 ・オリジナルエコバック3種 ・ストーリーカード10種 ・世界ジオの町アンテナショップ ・ワンコイン物流 ・機能性食品加工研究
2017 (H29)	▼ ジオサイトの植生回復顕著 ▼ 修学旅行等誘致へのジオパーク活用	★ ジオサイト保全強化 ★ 誘致事業強化	・ジオサイト保全 ・修学旅行、外国人誘致キャンペーン
2018 (H30)	▼ 散策路が特別保護地区で、植物が見学者の視界を阻害	★ 環境省との調整	・特別保護区の一部を園地認定
2019 (R01)	▼ 訪日観光客増加による環境負荷 【充当予算】過疎地域等自立活性化推進事業	★ 来訪者・住民の環境意識向上	・冊子製作 ・洞爺湖周辺環境基礎調査（空中・水中・鳥類・植物・海浜等）等



まとめ |

洞爺湖町では、町の課題を解決するために、ジオパークの視点を活用してきた。ふるさと教育や防災教育には「大地の成立ちの物語」が不可欠であり、産品の付加価値化（物語を足すことで生まれる特別感）にも効果的であった。地学を出発点にあらゆる分野の研究者や事業者との関わりが生まれることも地域にとってメリットである。洞爺湖町ではこのメリットを生かし、今後も地域づくりに取り組む予定である。